

科目名	一般教養C 1							年度	2025
英語科目名	General Education C1							学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	選	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	村上誠一郎	教員の実務経験		有	実務経験の職種		放送業務		
【科目の目的】 テレビ番組が放送されるまでに、どんな職種が関わり、どの様な流れで番組を作っているのかを理解する。 業界用語、専門用語等を学びながら、番組制作の方法論や流れを学ぶ。 業界の良い点・悪い点をしっかり理解し、業界で働くに当たっての相応の覚悟を持つ。 技術や知識も大事だが、それ以前に求められる社会人としての振る舞いや人間性を知る。									
【科目の概要】 クリエイターに必要な用語や方法論、基礎教養を学びます。									
【到達目標】 テレビ業界の概要を理解し、番組づくりに必要な知識、具体的な仕事内容、独特な業界のルール、多彩な職種等について学びます。また学校を卒業すれば、テレビ業界に限らず、まずは仕事を覚えて社会に溶け込む「修行期間」となります。必ずしも楽しいことばかりではないこうした期間をどう乗り切るのか、実例を交えて学び、将来のビジョンを描きます。そうした中で、自分の興味・関心や適性を知り、2年次に進級する際の展望を明確にすることを目標とします。									
【授業の注意点】 学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。業界ルールの観点から、実際の現場の緊張感を持って授業に取り組んで頂きたい。基本は1分でも入室が遅れたものは授業参加を認めない。詳しくは、最初の授業で説明予定。社会に出た際、実践で最初のライバルとなる大学卒業生たちと、対等に意見交換するためには学生自身の努力が不可欠である。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	テレビ業界の仕事を理解し、自分の進路選択の判断材料にできる	テレビ業界の仕事を理解したが、自分の進路選択の判断材料にできない		テレビ業界の仕事を理解できず、自分の進路選択の判断材料にもできない					
到達目標 B	業界・専門用語を理解し、それらの用語を用いた会話ができる	業界・専門用語を理解したが、それらの用語を用いた会話ができない		業界・専門用語を理解できず、それらの用語を用いた会話もできない					
到達目標 C	テレビ番組の画面構成とCM・提供の重要性を理解できる	テレビ番組の画面構成を理解したが、CM・提供の重要性が理解できない		テレビ番組の画面構成もCM・提供の重要性も理解できない					
到達目標 D	放送の定義や種類、放送を規制するルールを守る重要性を理解できる	放送の定義や種類は理解したが、放送を規制するルールを守る重要性を理解できない		放送の定義や種類、放送を規制するルールを守る重要性を理解できない					
到達目標 E	広告メディアとしてのテレビの立ち位置、視聴率の重要性を理解できる	広告メディアとしてのテレビの立ち位置は理解したが、視聴率の重要性を理解できない		広告メディアとしてのテレビの立ち位置、視聴率の重要性を理解できない					
【教科書】 資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。自己分析シート提出。積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

